

施策番号	331	施策名	学校教育の充実	令和5年度主管課名	学校教育課
総合計画体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和5年度課長名	黒瀬 豊
	関係課名		子育て支援課 生涯学習課	シート作成者	忠政 善貴

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 小学校児童	→	ア	町内の小学校児童数	人	見込値	615		615	611	617
						実績値	661	622	620	
イ 中学校生徒	→	イ	町内の中学校生徒数	人	見込値			327	313	295
						実績値	313	344	321	
ウ 学校施設	→	ウ	町内の幼稚園・小中学校数	校	見込値			7	7	7
						実績値	9	9	7	
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 調和のとれた人材に育ってもらう	→	ア	学校生活が充実していると答えた児童の割合	%	目標値	90	90	90	90	90
						実績値	92.8	87.7	90	
イ	→	イ	学校生活が充実していると答えた生徒の割合	%	目標値	82.6	83.2	83.8	84.4	85.0
						実績値	80.5	95.5	95.9	
ウ 確かな学力と豊かな人間性を育てよう	→	ウ	全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差(児童)	-	目標値	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0
						実績値	-1.5	-3.4	-3.4	
エ	→	エ	授業以外で平日1時間以上勉強する生徒の割合	%	目標値	60.0	62.5	65.0	67.5	70.0
						実績値	60.5	67.9	51.3	
⑤ 成果指標設定の考え方		豊かな人間性を持ち、調和のとれた人材に育ってもらうためには、バランスのとれた教育を受けることが重要であることから、「学校へ行くのが楽しい」と思える児童・生徒の割合、学力面では、全国及び県内で一斉に行われる「全国学力・学習状況調査の平均正答率」を指標に設定した。		⑥ 成果指標の把握方法及び算定式等		ア・イ: 学校評価平均値 ウ: 全国学力状況調査平均値との差 エ: 全国学習状況調査				

2. 施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	① 住民の役割(自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割(町・都道府県・国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、保護者、地域と連携した教育の構築を図る。 ・保護者は、家庭学習習慣をしっかりと身につけさせるよう努める。 ・地域は、地域ぐるみで学校を支援し、子どもの成長を支える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の整備・充実を図る。 ・教育基本方針の作成を行い、学校に対しての指導助言に努める。 ・学校教育の充実(教職員配置の増員など)のため、国・県へ支援を要する。

3. 評価結果

5年度の評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	<p>① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)</p> <p>「学校生活が充実しているか」については、学校評価の結果から、小学校では90.0%で目標値と同じく、中学校では95.9%で目標値を+12.1p大きく上回っている。学校生活に対する児童生徒の好意度はほぼ目標値通り達成できている。令和5年度全国学力・学習状況調査の平均正答率については、全国平均と比較して、小6では国語・算数の平均値が-3.4p、中3では-1.9pの差であった。学力面については、小中ともに目標値を下回る結果となっている。課題に応じた補充学習の取組の不足、日々の授業改善の取組が十分でないことなどが要因として考えられる。また、小中共に家庭学習時間が十分でない。</p> <p>② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)</p> <p>令和5年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査より、「学校に行くのは楽しいか」という項目で肯定的に答えた児童は82.0%(R4小6)⇒93.4%(R5小6)、生徒は84.5%(R4中3)⇒84.3%(R5中3)と、小学校では大きく向上しているが、中学校ではほぼ同じ結果が見られた。学年によって変動は見られるものの、全国平均値以上に鏡野町内の児童生徒は学校生活を楽しんでいる結果が現れている。各学校に十分な教職員を配置していることで、児童生徒の学校生活にしっかりと目を配っていることや、居場所のある学級集団作りを行っていることが、全国平均を上回る結果につながっていると考えられる。学力調査結果においては、小学校6年で平均正答率が国語05(全国07.2)で-2.2p、算数08(全国02.5)で-4.5p、中学校3年で国語70(全国09.8)で+0.2p、数学47(全国51)で-4.0p全国平均を下回っている。令和3年度、令和4年度の調査では、小中共に全国平均を下回っていたが、全国平均を上回る教科も見られてきた。令和3年度調査と比較すると、小6国語は-3.6pから-2.2pへと向上した。小6算数は、-3.2pから-4.5pへと低下した。中3国語は-2.0pから+2.0pへと向上している。中3数学は-0.4pから-4.0pへと低下した。鏡野町内児童生徒においては、算数・数学に課題がみられている。各学年における学習の定着度が甘く、積み残したままになっていることが考えられる。一人一人の課題に応じた補充的な取組が必要である。</p> <p>③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)</p> <p>令和5年度全国学力・学習状況調査における質問紙調査では、「学校に行くのが楽しい」という項目に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定的回答の割合は、小6は93.4%で全国85.3%を8.1p上回っている。中3は84.3%で全国81.8%を2.5p上回っている。学校生活について鏡野町内の児童生徒は、全国平均を上回って「学校が楽しい」ととらえている。しかし、学力については全国平均や県平均を下回っており、要因の一つとしては教員の指導力とも関係があり、学校での学力向上に対する意識の醸成が不十分であることが考えられる。学校のトップリーダーである校長の意識改革はもとより、各学校の校内研修等の充実により教員の指導力向上と授業改善が必要と考える。</p>	<input type="checkbox"/> 目標値を上回る <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回る <input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
<p>2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など</p> <p>令和5年3月末で閉校となった香北小学校は香々美小学校へ、富小学校は奥津小学校へ令和5年度から統合となり施策の環境変化があった。小学校においては、全校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして地域とともに学校運営を行い、地域の願いや教育を生かした学校づくりを努めてきた。地域住民からは、子どもたちの学力向上のみならず、知・徳・体(生きる力)のバランスのとれた教育を求める声が多い。また、小規模な小学校の保護者からは、適正な規模における教育のため統合を望む意見もある。北部地域唯一の奥津小学校を存続していくために、令和6年度から「小規模特設校」制度を導入していく予定である。</p>		
<p>3. 施策の振り返りと総括(5年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・課題点と原因は?)</p> <p>① 施策の成果向上につながった主な事務事業 小学校支援教員配置事業・中学校支援教員配置事業・鶴喜小学校臨時管理費</p> <p>② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業 鏡野町教育研修事業費</p> <p>③ 施策全体の振り返りと総括</p> <p>鏡野町内小中学校においては、町独自に人員配置がなされており、落ち着いた学校運営を行うことができる。人員が十分に配置されていることで、一人一人の児童生徒に目が行き届き、児童生徒は落ち着いた状態で学習が行えるだけでなく、「学校生活の充実」にも寄与している。本事業の成果として、児童生徒の暴力行為やいじめなどの問題行動数は少なく、この点においても落ち着いた学校運営につながっているといえる。本施策においては、「学力向上」が大きな課題といえるが、学力向上担当者を中心とした学力向上推進委員会を年間4回開催し、学力調査の結果を踏まえて結果状況の共有や課題分析からの改善に向けた取組を共通認識している。また、学力向上に係る外部講師を招聘して学力向上担当者の意識改善を図ってきた。各校においては「学力向上推進プラン」に結果や取組を整理し、課題改善に向けた具体策を講じてきた。さらに、学力向上と連動して一人一台端末を活用して児童・生徒のICT活用能力を高めていくことも求められている。ICT活用を積極的に進めていくためにもICT支援員を配置し、ハード面における支援や授業及び教職員研修でのソフト面における支援も行ってきた。今後、全国学力・学習状況調査も令和7年度から順次CBT化が図られる予定であり、一人一人が個別最適な学習や協働的な学習の場面でタブレット端末を十分活用していくことができるよう進めていく必要がある。(CBT: Computer Based Testing) これまでの紙媒体での調査ではなく、一人一台端末のコンピュータを用いた調査を行うこと) 学校施設の面では、鶴喜小学校にて大規模改修工事を行い、よりよい学校の環境づくりに努めた。</p>		
<p>4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取組むべきこと、さらに力をいれる必要があること)</p> <p>① 今後施策の成果向上につながる主な事務事業 小中学校情報機器整備事業費</p> <p>② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向</p> <p>「学校生活が充実している」と回答している児童生徒は全国平均を上回っていることと比較し、学力は全国平均を下回っていることから、今後の課題としては引き続き、学力向上があげられる。学力面については、経年推移でみると緩やかにではあるが改善傾向にあるので、引き続き学力向上推進委員会を継続的に実施し、各学校の取組を充実させていくとともに、鏡野町教育研修会を充実させ、教職員の指導力向上に努めていく必要がある。また、児童生徒の家庭学習時間を増やしていく取組も必要である。家庭学習の出し方や取組ませ方について、校長研修会や学力向上推進委員会と共通認識を図るとともに、引き続き各校に「学力向上推進プラン」を作成させ、進捗状況を確認することで各校の取組を促していきたい。ICTの活用については、学校現場では、実物投影機やプロジェクターを使って黒板上のスクリーンに教材や資料などを投影しながら授業を行っているが、解像度が低く、児童・生徒にとって鮮明に見ることができにくい状況にある。また、協働的な学習の場面でも一人一台端末に入力した内容を共有することができにくい状況になっている。今後、ICTを活用した授業を活性化させていくためには、電子黒板等の情報機器の整備に取り組むことが成果向上につながると考えている。そして、環境整備とともに教職員の活用指導力を高めていくことも必要である。鏡野町教育研修会の情報教育部会とも連携をしながら、教員のICT活用指導力を高めていきたい。さらに、夢づくり事業を通して子どもが郷土への愛着と将来を見据えた「夢」を持てるような特色ある教育活動の推進を図ってきたい。</p>		